

長野市都市計画マスタープラン（案）

概要版

令和9年4月

長野市

序 はじめに

都市計画マスタープランとは

少子高齢化や人口減少の本格的な進展、自然災害の激甚化・頻発化、環境・エネルギー問題の深刻化などの社会の変化に対応して、土地利用や都市施設の整備などの計画を定め、都市の健全な発展と秩序ある整備を図っていくための計画が都市計画です。

都市計画マスタープランは、概ね20年後の都市の姿を見据え、市民の皆さんの意見をお聴きしながら、都市としての特徴や課題を踏まえて、市の都市計画の基本的な方針を示したものです。

都市計画マスタープランの役割

○長野市の都市計画に関する基本的な方針

- ・市街化区域及び市街化調整区域、用途地域、道路、公園、土地区画整理・市街地再開発事業などの個別具体の都市計画を決定・変更するための指針となります。
- ・まちづくりに関する各種計画の策定や、個別の開発・建築指導などを行う際の指針となります。

○都市整備を実施するための指針

- ・道路、公園など都市施設の整備や、まちづくりに関する具体的な取組を検討・実施する際のよりどころとなります。

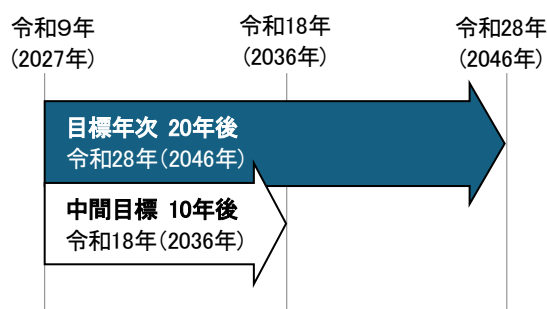
○市民・民間団体との将来ビジョンの共有

- ・長野市のまちづくりの将来ビジョンについて、市民・民間団体などと行政が共有を図ることで、多様な主体が連携したまちづくりの推進に寄与します。

計画範囲と目標年次

計画範囲は、都市計画区域内を基本としつつ、都市部と中山間地域が近接する長野市の特徴を踏まえて、市域全体を対象とします。

目標年次は、基準年を令和9年(2027年)として概ね20年後の令和28年(2046年)とします。また中間目標年次は、概ね10年後の令和18年(2036年)とし、見直し時期の目安とします。



改定の背景

近年の長野市を取り巻く社会情勢は、人口減少と少子高齢化が本格的に進行していることに加え、厳しい財政状況のなか、人口増加期に拡大した市街地での人口密度の減少により、一部の地域では公共交通や生活を支えるサービス水準が低下することが懸念されています。こうした状況下においても、現在の長野市らしい心豊かな暮らしを持続的に次世代につないでいくため、本マスタープランを改定し、都市づくりの指針として、多様な取組を強力に進める必要があります。

第1編 全体構想

今後のまちづくりに向けて認識すべき課題

長野市の多様な資源を活かした活力のあるまちづくり

歴史と文化に根ざした魅力や、地域ごとに多様な暮らしとコミュニティがあることなど、これまでに長野市が培ってきた魅力を活かしたまちづくりを進めることが重要です。加えて、広域交通の結節点としての利便性や、都市と自然が近接する特性を活かし、他の都市圏からの人やモノを呼び込むなど、新たな活力の創出に向けた取組が求められています。

まちなかの魅力を活かした中心市街地の更なる活力向上

中心市街地の活性化は都市の持続性に直結するため、商業・居住・業務など多様な都市機能の集積を高めながら、長野市ならではの地域資源を活用した取組を公民連携で進めることが重要です。

人口減少・少子高齢化でも暮らし続けられる地域づくり

長野市の人口は、同規模の都市に比べて、早い段階で人口減少の局面を迎えました。現在では、中山間地域において人口減少が特に顕著であり、市内でも地域ごとに人口動態の違いが生じています。労働力や地域コミュニティの維持が難しくなりつつあり、将来も暮らし続けられる持続可能な地域づくりを実現する必要性が高まっています。

労働力が減る時代における都市サービスの維持

地域課題を解決する手段として、自動運転や空飛ぶ車などのモビリティ革命の実現や、AIをはじめとする新たな技術の活用などによる都市サービスの維持や効率化を図る取組を進める必要性が高まっています。

都市インフラが適切に更新できる持続可能な都市構造形成

老朽化が進む道路や上下水道など都市インフラの維持管理や更新に要する費用が増大し、限られた財源で効率的な都市経営が求められるため、集約型都市構造を推進する必要があります。

多様な交通手段を組み合わせた移動利便性の維持

公共交通の路線維持が難しくなりつつある一方で、市民アンケートによると自転車を使った移動のしやすさに関する需要が高まっており、自家用車のみでなく、徒歩・自転車・公共交通などを組み合わせた多様な移動手段を選択できる環境づくりが求められています。

気候変動も想定した強靱な都市づくり

令和元年東日本台風による千曲川の氾濫や神城断層地震などの被災経験を踏まえ、水害や地震への備えはもとより、気候変動に伴うリスク増大も想定し、都市全体のレジリエンスを高め、市民の安全安心な暮らしを守ることが喫緊の課題です。

脱炭素社会に対応した環境共生型の都市づくり

2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、脱炭素型の都市構造や再生可能エネルギーの導入、省エネルギー建築物の普及などが求められています。自然豊かな長野市だからこそ、環境保全と都市活動の両立を進め、持続可能な都市の姿を示すことが求められています。

都市づくりの理念・目標

都市づくりの理念は、マスタープランの基本となる考え方を示したものであり、長野市の総合計画が目指すまちづくりの基本方針や、長野市の特徴を踏まえ、次のように定めます。

理 念 自然と寄り添い、地域ごとの歴史や文化を守り育てながら、
心豊かな暮らしのある長野市らしいまちの姿を未来へつなぐ

長野市は、四季折々の自然に恵まれ、善光寺をはじめとする歴史や文化が息づいています。こうした豊かな資源は、私たちの暮らしを彩り、人々が集い、人と人とのつながりを育みながら、地域ごとに特徴が異なる長野らしいまちの姿をつくり出してきました。しかし今、人口減少や高齢化の本格的な進行、激甚化・頻発化する自然災害、社会経済活動を支える新たな需要など、長野市を取り巻く環境が大きく変化する中で、次の時代に向けて、新しい都市づくりを考えていく必要があります。

自然を守りながら暮らしを育むこと、人と人とのつながりを大切にすること、誰もが安心して生活できること、そして地域ごとの特性を守り育てていくこと。これらを柱としながら、先人たちが作り上げてきた「まち」の空間資源や暮らしを大切にしながら、新しい価値を少しずつ積み重ねていくことで、次の世代に豊かさと希望をつなぐ長野市を目指します。



雲上殿から中心市街地を望む



戸隠スキー場



松代城と真田まつり



えびす講煙火大会

都市づくりの目標は、都市づくりの理念に基づき、長野市ならではの都市経営を戦略的に進めていく観点から、次のように定めます。

目標1 豊かな自然と歴史文化を大切にするまちづくり

目標2 暮らしやすい生活基盤と経済活動を支えるまちづくり

目標3 誰もが安心して暮らし続けられるまちづくり

多拠点連携の集約型都市構造（イメージ図）

暮らしに必要な施設や居住を適切に誘導しコンパクトな市街地を形成するとともに、拠点間を結ぶ公共交通や幹線道路を利用した移動手段を確保することで、これまで発展してきたそれぞれの拠点の役割を活かしながら、「多拠点連携の集約型都市構造（コンパクト・プラス・ネットワーク）」の実現を目指します。これにより、人口減少が進行しても市街地の人口密度を保ち、暮らしに必要な施設や地域のコミュニティを維持し、長野市らしい暮らしを将来へつなぎます。

広域都市拠点（長野駅周辺）

- ・長野駅は新幹線など広域交通の結節点
- ・商業・業務・居住など多様な都市機能が集積



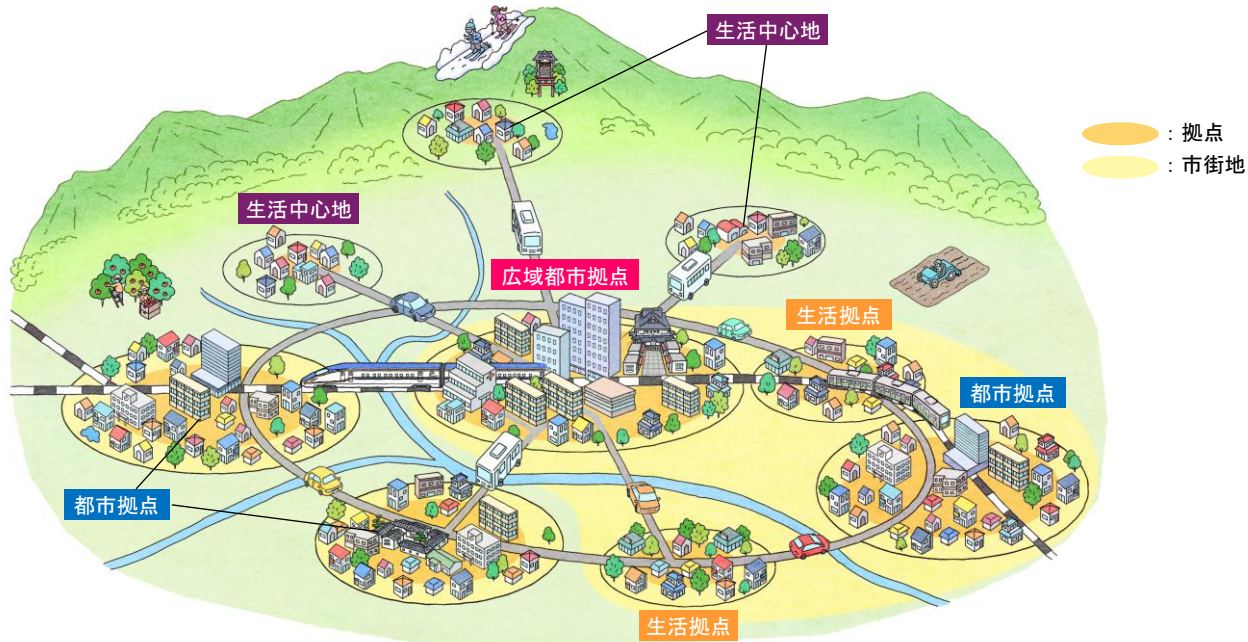
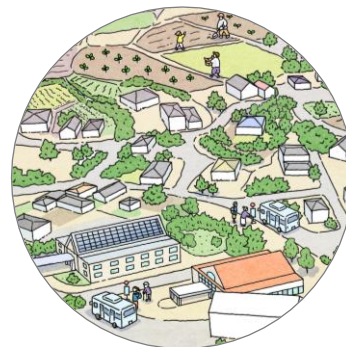
広域都市拠点（善光寺周辺）

- ・市民や観光客など多くの人が訪れ、ヒト・モノ・コトの交流により活気がある



生活中心地

- ・自然や農業と調和した豊かな暮らしがある
- ・公共交通により拠点とのアクセスを確保



都市拠点（松代）

- ・広域交通網が整っており、歴史文化的な観光資源を活かしたまちづくりが活発



生活拠点

- ・良好な住宅地をはじめ、商業・医療・子育てなどの環境が整っており、生活の利便性が良い



都市拠点（篠ノ井、北長野）

- ・鉄道やバスなど交通の結節点
- ・生活利便性を向上させる多様な施設が立地



目指す都市構造

長野市が目指す都市の姿を、「拠点」「軸」「ゾーン」の3つの要素により概念的に示します。

「拠点」とは

多様な都市機能や居住が集積した、都市活動・生活の核となるエリア

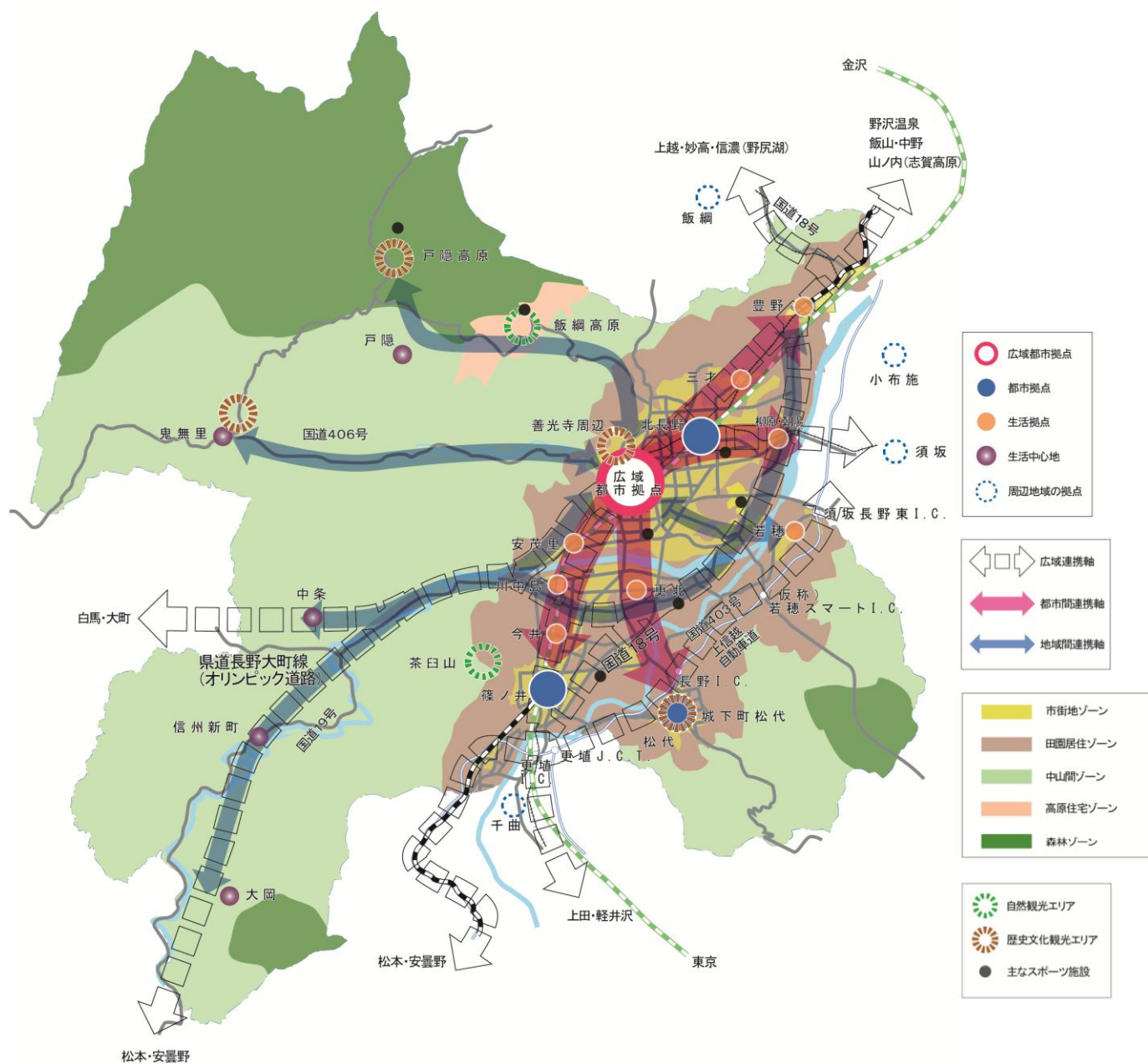
「軸」とは

拠点や地域間の移動や連携を担う、公共交通や幹線道路を主としたネットワーク

「ゾーン」とは

土地利用の状況や地域特性に応じて、今後の土地利用の方針を定めたゾーニング

■ 目指す都市構造図（拠点、軸、ゾーン）



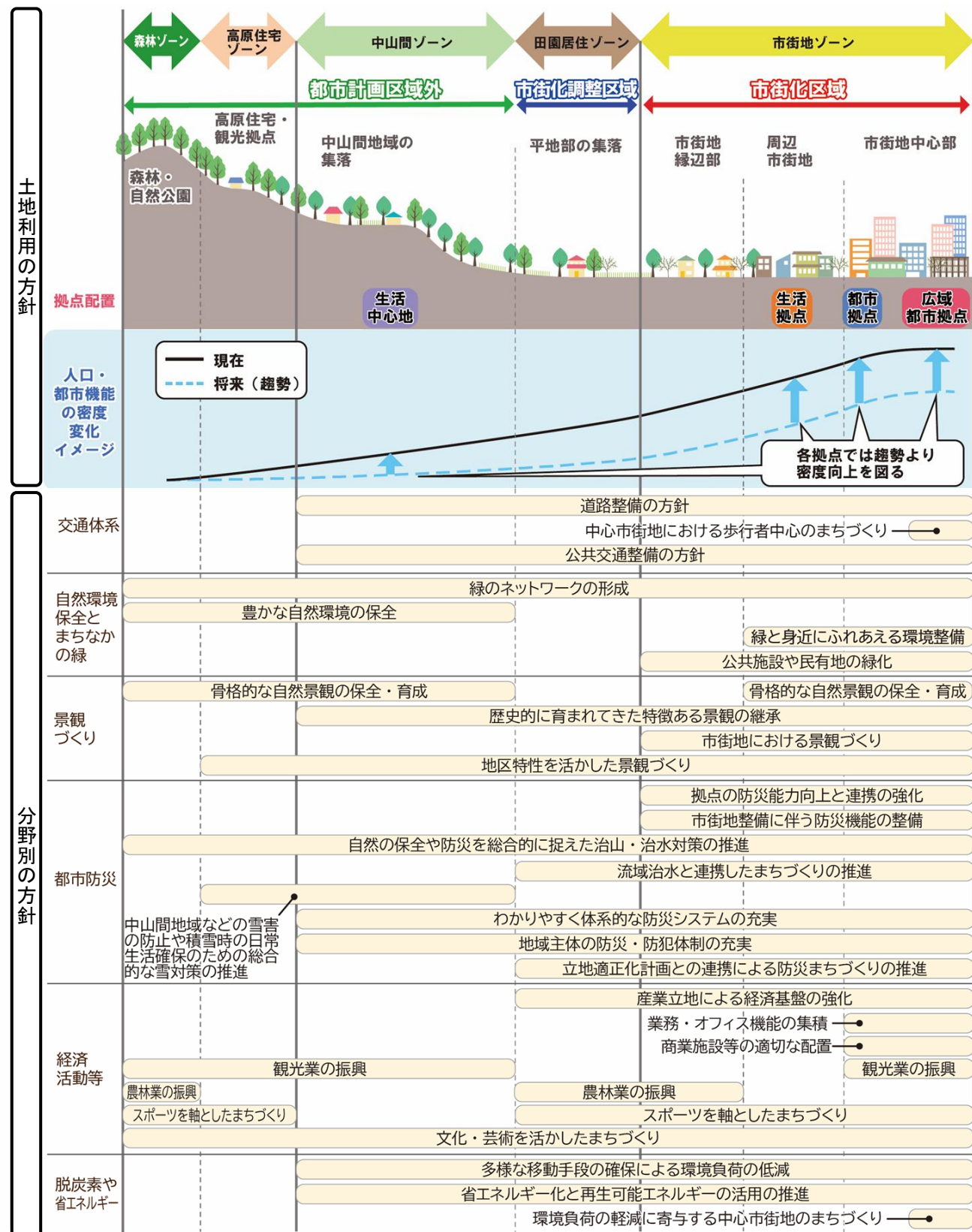
土地利用・分野別の方針

○土地利用の方針

中心市街地から中山間地域まで多様な特色がある長野市ならではの土地利用を図ります。

○分野別の方針

目指す都市構造の実現に向け、土地利用の方針に応じて、分野別に取り組む方向性を示します。

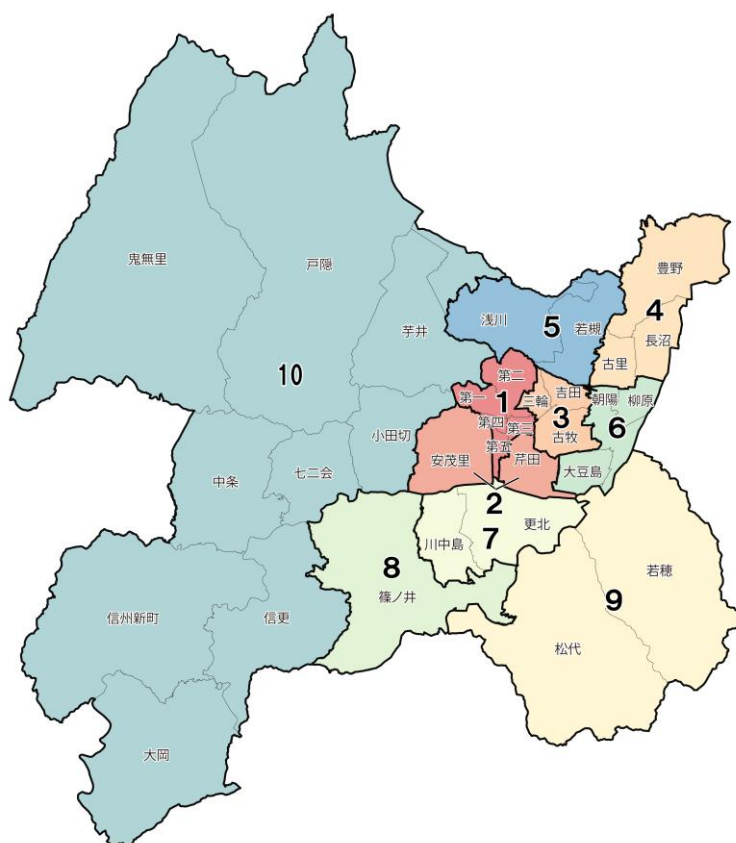


※分野別の方針は、取組を重点的に実施する土地利用区分に着色していますが、必要に応じて着色以外の土地利用区分でも取組を実施します。

第2編 地域別構想

「第1編 全体構想」を踏まえて、地域ごとにまちづくり構想を描きます。地勢や地域の成り立ちに応じた10地域ごとに、地域の特徴、課題、目指す姿を示します。

地域区分	
1	長野駅・善光寺周辺地域
2	芹田・安茂里地域
3	東部地域
4	北部地域
5	若槻・浅川地域
6	千曲川沿川地域
7	川中島・更北地域
8	篠ノ井地域
9	松代・若穂地域
10	北・西部中山間地域



(地域別構想の内容について、詳しくは本編をご覧ください)

第3編 都市計画マスタープランの実現に向けて 実現化方策

本マスタープランに描いた長野市を実現するために実施する取組について、「土地利用」「交通体系」「自然環境保全とまちなかの緑」「景観づくり」「都市防災」「経済活動等」「脱炭素や省エネルギー」の分野ごとに示します。

実現化に向けた考え方

本マスタープランに掲げる長野市の実現に向けて、市民・事業者・行政が共有すべき考え方や、施策を効果的に推進するための基本的な考え方を示します。

- ・ 庁内や関係機関との連携
- ・ 地域課題を解決する手段としての先進技術の活用
- ・ 市民との協働によるまちづくりの推進
- ・ 各種の都市計画制度の有効活用
- ・ 将来を見据えた戦略的な投資
- ・ 民間・大学等との連携によるまちづくりの推進